

写真家・浅田政志が見せる新境地。撮り下ろしの新作写真展を開催！

「浅田政志×大阪府 20 世紀美術コレクション展 画家と家族のここだけの話」

2026 年 7 月 25 日(土) - 9 月 6 日(日)

この度、大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]では、「浅田政志×大阪府 20 世紀美術コレクション展 画家と家族のここだけの話」を開催いたします。

写真家の浅田政志は、自らの家族を題材にした写真集『浅田家』で木村伊兵衛写真賞を受賞し、商業・フォトの世界で活躍するとともに、日本各地でアートプロジェクトや展覧会を行うなど、現在最も高く評価されている写真家のひとりです。この度大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]では、浅田政志が一貫して自らの制作テーマとしてきた「家族」や「個人史」を、大阪府が収集した「大阪府 20 世紀美術コレクション」の作品と接続させることを試みる展覧会を開催します。

大阪府のコレクションの中心となっているのは戦後関西で活躍した美術作家による作品です。その中から須田剋太（1906～1990）、伊藤継郎（1907～1994）、齋藤眞成（1917～2019）、上前智祐（1920～2018）の 4 人の画家を取り上げ、いわゆる「表向き」の作家の姿ではなく、家族しか知りえなかった画家の横顔に写真家・浅田政志が迫ります。画家が過ごしたアトリエやゆかりのある場所を舞台に、家族との対話を重ねながら撮影された、ちょっとユニークな「家族写真」。浅田政志による家族写真の新しい展開を、画家たちの絵画作品とあわせてご覧ください。



01



04

みどころ

1. 浅田政志の新作撮り下ろし写真を展示

今回、浅田政志は関西画壇で活躍した4人の画家の素顔に迫るために取材と対話を重ねて撮影に挑み、アトリエや学校など画家ゆかりの場所を舞台に、画家の家族から聞き取ったエピソードをもとにした特別なシチュエーションで撮影が行われました。本展は浅田が撮り下ろした新作写真約30点と、大阪府20世紀美術コレクションの絵画作品4点で構成されます。



02

2. 美術史 VS 家族史！？

浅田政志が写真で表現する関西画壇の一側面

本展では絵画作品そのものにとどまらず、画家の家族や生活の様子にまで画角を広げて取材と撮影を行いました。関西画壇で活躍した4人の画家に、浅田が「家族写真の撮影」というアプローチを用いて行った一連のプロセス自体が本展の作品となります。画家のよく知られた表の顔ではなく、画家を支えていた家族との日々の暮らしやエピソード、つまり家族史の観点から関西画壇の一側面を描出する試みです。コンセプチュアルなアプローチによって切り開かれた浅田政志の新境地をご覧ください。



03

展覧会概要

会 期 | 2026年7月25日（土）－9月6日（日）※月曜休館

時 間 | 10:30～18:00 ※最終日のみ 15:00 まで

会 場 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco] 1階 Room 4

入場料 | 無料

主 催 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]

協 力 | 学校法人辰馬育英会 甲陽学院中学校、伊藤洋画研究所、真正極楽寺 真如堂

アーティスト・プロフィール

浅田政志（あさだ まさし）

1979 年三重県生まれ。家族写真集『浅田家』（赤々舎）で第 34 回木村伊兵衛写真賞受賞。日本各地の市井の人々を撮影するアートプロジェクトや写真の啓蒙活動に精力的に取り組む。主な展覧会に「浅田政志 YOKOHAMA PHOTOGRAPH—わたし／わたしたちのいま—」（2023 年、KAAT 神奈川芸術劇場）、「ぎぼしうちに生まれました。」（2022 年、BAG-Brillia Art Gallery-）「私の家族」（2020 年～2021 年、阪急うめだギャラリー、三菱地所アルティウム）、「浅田撮影局」（2020 年、PARCO MUSEUM TOKYO）、「拡張するファッション展」（2014 年、水戸芸術館）、「LOVE 展」（2013 年、森美術館）、「八戸レビュー」（2011 年、八戸市ポータルミュージアムはっち）、「記念日をつくる記念写真」（2011 年、ミュゼふくおかカメラ館）、「Tsu Family Land 浅田政志写真展」（2010 年、三重県立美術館）ほか。『浅田家』、『NEW LIFE』（赤々舎）、『家族新聞』（幻冬舎）、『アルバムのチカラ』（赤々舎）など著書多数。『浅田家』と『アルバムのチカラ』を原案とした映画『浅田家！』が 2020 年に公開された。



09

大阪府 20 世紀美術コレクション作家 プロフィール

須田剋太（すだ こくた、1906～1990）

埼玉県吹上町（現・鴻巣市）出身。埼玉県立熊谷中学校(旧制)卒業後、浦和に在住し独学で絵を学ぶ。寺内萬治郎によって画家としての才能を見いだされ、官展への出品を勧められ、戦前から戦後にかけて、光風会、文展、新文展、日展に具象作品を出品し、特選を 3 度とるなどして画壇に認められる。

30 代の半ばに京都・奈良などの伝統文化に憧れて関西に移り住み、東大寺・新薬師寺などをテーマに制作する。関西の文化人のあつまり「転石会」への出席などを通じての長谷川三郎との出会いと、長谷川によって示唆された道元の「正法眼蔵」に大きな影響を受け、官展と決別し国画会に移り、抽象絵画を描くようになる。「現代日本美術展」、「日本国際美術展」、「日米抽象美術展」のほか、1955 年「世界・今日の美術展」、1956 年「サンパウロ・ビエンナーレ」などへ出品し活躍する。

1971 年からは司馬遼太郎が『週刊朝日』に連載する「街道をゆく」の連載挿絵を手がけ、国内外の風土と人間を須田独特のエネルギッシュな画風で表現した。1990 年、大阪府は須田剋太氏より絵画作品 2227 点の寄贈を受けた。

伊藤継郎（いとう つぐろう、1907～1994）

大阪生まれ。松原三五郎が主宰する天彩画塾や、赤松麟作の洋画塾に学ぶ。1930 年芦屋に転居する。1931

年鍋井克之の知遇を得て、信濃橋洋画研究所に通い始める。二科展、全関西洋画展、新美術家協会展に出品をしていたが、1941 年、小磯良平、猪熊弦一郎らの誘いによって新制作派協会に転じ、会員となり出品を続けた。

1944 年満州に出征し、終戦後にシベリア抑留を経験する。復員後の 1948 年、芦屋美術協会の創立に吉原治良らと参加。アトリエでは頻繁に研究会、デッサン会を開き、子供画塾をひらいて児童らの指導にあたった。1961 年には鍋井克之の誘いで浪速短期大学、大阪芸術大学の教授となる。1965 年には京都市立美術大学西洋画科の教授となり、戦後、関西洋画壇の指導者として活躍した。

実証的な観察に基づきながらも、グレー系の色調の厚塗り絵の具を用い、様式的な統一性が感じられる落ち着いた雰囲気作品を中心に、晩年には絵の具をチューブから直接絞り出して描く明朗なモチーフの作品を描いた。1969 年、芦屋市民文化賞受賞、1990 年には兵庫県文化賞を受賞。大阪府は 1993 年、伊藤継郎氏より絵画・素描作品 238 点の寄贈を受けた。

齋藤眞成（さいとう しんじょう、1917～2019）

京都の名刹・真正極楽寺真如堂 東陽院の僧侶。少年時代は南画家であった伯父(服部五老山人)の影響を受ける。龍谷大学在学時代より、文展の審査員であった太田喜二郎に師事するとともに、紫野洋画研究所で洋画を学ぶ。伊谷賢蔵の知遇を得て戦後は行動美術協会に所属して本格的な作品発表をはじめ。

1960 年代半ばから 1970 年代にかけては自然に対する深い慈愛を表した作品、妖怪変化をあつかった作品、仏教説話を題材にしたものが多く、作風は叙情的な心象風景からしだいに欧米の現代美術の影響を受けた激しい筆触と厚塗りによる作風へと変化していく。1980 年代には抽象化された色面構成による作品が目立ちはじめ、それまでの油彩、キャンバスの他にガッシュ、水墨、紙といった画材も使われるようになり、南画的な世界への接近がはかれるなど、東洋と西洋とが交錯した齋藤眞成独自の画境が展開していく。1987 年「京都府文化賞」受賞。1997 年、大阪府は国立国際美術館と共催で齋藤眞成展を開催し、これを機に齋藤眞成氏より絵画作品 53 点を収集した。

上前智祐（うまえま ちゆう、1920～2018）

京都府中郡奥大野村（現在の京丹後市）に生まれる。20 歳までの青春期には、画家をめざしながら神戸・横浜・東京で放浪生活を送る。舞鶴に戻り、改めて画家をめざし、「二紀展」に入選。その後、神戸に移住し、32 歳のときに見た吉原治良のクレパス画に強い印象を受け、師事し指導を受ける。具体美術協会の結成時から 1972 年に解散するまで在籍する。派手なアクションを使った作風からは距離をおき、細かい点描を時間をかけて集積させた油彩画、マッチ棒やおがくずを塗料で塗り固めたマチエールによる絵画、布と糸を素材に丹念に運針を重ねた「縫い」の作品など、一貫して緻密な手作業による画面作りにこだわり続けた。1999 年 2 月に大阪府立現代美術センターで回顧展を開催。これを機に、大阪府は上前智祐氏より作品 61 点を収集した。その後、2007 年に再び同氏より版画作品 187 点の寄贈を受けた。

関連イベント

◎浅田政志 アーティスト・トーク

日時：7月25日（土）13:30～15:00

会場：2階 Room8

定員：30名

参加費：無料

浅田政志さんが今回の展覧会について、撮影時のエピソードを交えながらお話しします。スペシャルゲストも登場するかも…？！

◎ワークショップ「わたしの一枚」

日時：8月8日（土）①10:30～12:00 ②13:30～15:00

会場：2階 Room8

定員：各回15名

参加費：2,000円（税・材料費込）

協力：キヤノンマーケティングジャパン株式会社

写真を撮るだけでなく、プリントしておくことの大切さについて浅田政志さんと考えるレクチャー・ワークショップ。お持ちのスマートフォンの中に数ある写真の中から一枚の写真を選び、プリントします。

イベントへのお申し込み方法：

右の enoco 展覧会 web サイトよりお申し込みください（先着順）。

申し込み期間：7月7日（火）10:00～

※フォームからの申し込みが難しい方は電話にて受付します

（電話：06-6441-8050）。

★展覧会ウェブサイト：<https://www.enokojima-art.jp/kokodake/>



お問い合わせ先：

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

地下鉄(Osaka Metro)中央線・千日前線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m

TEL：06-6441-8050 FAX：06-6441-8151

mail：art@enokojima-art.jp

web | <https://www.enokojima-art.jp/>

※当センターは、2022年4月より enoco 文化創造プロジェクトとして吉本興業株式会社が代表団体となり、指定管理運営を行なっています。

広報用図版

広報用にお使いいただく図版を9点ご用意しました。画像の利用は展覧会の広報・紹介を目的とする新聞・雑誌その他のメディア（ウェブメディアを含む）の記事内でのご使用に限ります。お貸出しをご希望の方は、貸出条件をご確認のうえ、下記の必要事項とあわせて図版番号をメール（art@enokojima-art.jp）にてご連絡ください。

【必要事項】

御社名／ご担当者名／貴媒体名（ジャンル）／発売・放送予定日

【貸出条件】

- ・ 作品画像の掲載にあたっては、写真に付記されているクレジットを正確に表記してください。
- ・ 画像のトリミング、文字載せ、色彩変更その他の改変はご遠慮ください。
- ・ 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。
- ・ 記事の掲載後には掲載誌（紙）、ウェブサイトの URL 等をお送りください。
- ・ 使用後はかならずデータを削除してください。



01

浅田政志

《画家と家族のここだけの話 須田剋太》2025 年



02

浅田政志

《画家と家族のここだけの話 伊藤継郎》2026 年



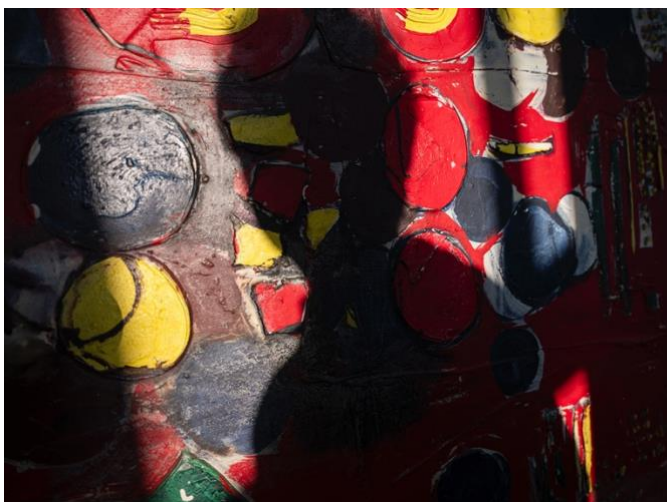
03

浅田政志 《画家と家族のここだけの話 齋藤眞成》 2025 年



04

浅田政志 《画家と家族のここだけの話 上前智祐》 2025 年



05

浅田政志

《画家と家族のここだけの話 須田剋太》 2025 年



06

浅田政志

《画家と家族のここだけの話 伊藤継郎》2026 年



07

浅田政志

《画家と家族のここだけの話 齋藤眞成》2025 年



08

浅田政志

《画家と家族のここだけの話 上前智祐》2025 年



09

浅田政志